



首都大学東京 大学院 社会科学研究所



経営学演習 「企業倫理論」 #12

§ 企業倫理とサステナビリティ §

2014年7月11日

岡本 享二 (おかもと きょうじ)
ブレーメン・コンサルティング(株)

本日の講義ポイント

- 企業倫理論の大前提として、資本主義の現状と課題を三人の学者の著書から垣間見た。資本主義へのチャレンジは、遠大なものではあるが、人類の繁栄を大局的にみると、資本主義と言えども100年単位では大きく変わる。
- 現在の資本主義の出現は約200年。行き過ぎた資本主義といわれ出して20年足らずである。今後は地球の持続性(サステナビリティ)を実現するため資本主義の中で、いかに地球環境や社会問題を解決するか論じられよう。
- 自然資本主義(健全な消費、生物多様性の尊重、バイオミクリ、ブルーエコノミーなどなど)やDeepCSRの出番である。
- 元々CSRはMoving Targetといわれているように焦点が定まらないが、さらに商業主義が入ってきて、一般的には混乱している。そこを整理しておく。
 - 企業サイドのCSR:企業の宣伝、広告、広報活動
 - CSR推進ファーム:個々のCSR課題の切り売り、過剰なCSR投資
 - CSRの世界基準へ:EUのCSR戦略
 - DeepCSR:生態系に則ったCSRの追究

本日の講義資料

- 課題：『資本主義のあり方について』三人のレポートを紹介。
 - 平松秀郷・・・「企業倫理としての資本主義のあり方について」
 - 藤本邦男・・・「資本主義に対する考え方の変化と、CSRの扱いについて」
 - 岩野貢・・・「資本主義のあり方」
- Deep CSRについて：箱根セミナーで岡本が発表したパッケージ『Deep CSRとHolistic Management System』の中から、新たに作ったチャートを中心に抜粋して紹介。
- サステナビリティについて：7月3日に鈴木基之先生(元国連大学副学長)との勉強会で発表されたチャートの紹介と解説。



CSR施策実現への実務の要諦

- 全員に徹底させる仕組み作りが必要！
- 作っただけでは『絵に描いた餅』で機能しない！
- 信賞必罰も必要かつ効果的



- CSRのHolistic Management Systemが必須
- CSRの本質を追究することが重要



Deep CSR –まとめ–

- Reactiveに行うかProactiveに行うかで大きな差
 - 積極的な環境/CSR対応でビジネスに貢献
 - Due Diligenceの心構え
 - CSRに本気で取り組むEU、CSVで実効を挙げる米国
 - 活かそう日本古来からの文化と智慧
- TopのCommitmentが最重要
 - In the case of ham and eggs, the pig is really committed, but the hen is just participated.
 - Topを説得することが環境/CSR部門長の責務
- Holistic Management Systemの適用で活性化



Discussion #12

- 「行きすぎた資本主義」の事例を、各位の体験談（業務を通して感じた矛盾など）があれば挙げよ。
- 資本主義の矛盾や問題点が十分理解できたとして、経済システムは大型船舶のようなもので、急には方向転換ができない。どのような心構え（企業なら理念や哲学）を持つべきだろうか。

以上、前回と同様

- サステナビリティの実現に企業はどう対処すべきか論じよ。